

「Natural material products 展」 未利用材から生活用品へ

代表	井生文隆	*Fumitaka Io
	中谷昭子	**Akiko Nakatani
	平川和明	***Kazuaki Hirakawa
	溝内健吾	****Kengo Mizouchi
	竹部徳真	*****Tokuma Takebe
	北口絢章	*****Kensho kitaguchi

1. はじめに

経済の著しい発展と先進テクノロジーの普及により、人々の暮らしが広がり、様々なイノベーションが提供される社会において、文化を創造する一翼を担うデザインの役割や使命はどうあるべきかが問われ、生活と産業を結ぶ新しい姿の具現化を迫られている。

社会とモノの在り方については、大量生産・大量消費から脱却し、空間のなかで人とモノの関係を全体のハーモニーとして実現させることを真剣に考える必要がある。地球の資源を守り、持続すると共に、いかに、開発、生産、消費、価値の向上、再利用について基本的なシステムを構築できなければ、地球の未来はないのではと考える。

今世紀の社会では、「人」と「モノ」と「環境」の関係において、「価値の向上と持続性」を目的に、「物語を語るデザイン」が大事である。タイムレスデザインとよばれるモノは、流行にとらわれることなく、いつの時代においても新鮮な魅力を持つので、モノを通して様々な物語が生まれる訳である。そのことでモノへの思いが深まり使うほど麗しくまた愛おしくなり、永く愛用されて環境に対する優しさにつながる。本当に人々の暮らしに溶け込み、デザインが時代や流行に対して超越し、色褪せずに世界中の人々に愛されることが、重要なデザインの役割である。

筆者は「自然と人間のニーズを真摯かつ誠実に満たして、具体的なデザインとして表現する活動」への取り組みに携わってきた。その中の一つとして「竹材によるデザイン製品の研究開発」のプロジェクトをこの展示会で紹介する。

1996年、フィンランド国立ヘルシンキ芸術デザイン大学（現アアルト大学）に研究留学し、自然との暮らしの営みに培われ、「人」と「モノ」と「自然」の関わりを融合させて育ててきたフィンランドデザインが有する、「サステイナビリティ」について研究成果を得た。以降フィンランドのデザイナー達と共に、「地球環境のための素材活用」をテーマにデザイン活動に取り組んできた。

自然界では竹林が里山を侵食しつつあり、そして里山ばかりでなく、さらに奥のほうまで広がって森林の環境に悪影響を及ぼしている。栽培管理を放棄された竹林が強い繁殖力を持つ地下茎で周辺の森林へ拡大し、他の樹木の生長を阻害し、森林の生態系にも影響を及ぼすことが懸念されている。

「竹」のプロジェクトは、2003年に受託研究「萩（山口県）の竹のブランド化」の一環としてスタートした。森の環境保全と密接な関わりを持ち地域の資源でもある「竹」を活用したデザイン開発を企画し、地域産品

* 山口県立大学大学院国際文化学研究科教授

Professor of Graduate School of International & Cultural Studies, Yamaguchi-Prefectural University

** 山口県立大学大学院国際文化学研究科2008年中退、フィンランド国立ラップランド大学アート・アンド・デザインMAコース
2011年修了、九州造形短期大学造形芸術学科助教

2008-11 Art and Design, MA course, University Of Lapland, Finland, Assistant Professor of Kyushu Zokei Art College

*** 山口県立大学大学院国際文化学研究科2006年修了、LB Furniture works 代表

2002-06 Graduate School of International & Cultural Studies, Yamaguchi-Prefectural University, LB Furniture works

**** 山口県立大学大学生生活科学部環境デザイン学科2002年卒業、LB Furniture works 代表

1998-02 Environmental Design Dept. Yamaguchi-Prefectural University, LB Furniture works Director

***** 山口県立大学大学院国際文化学研究科2012年修了、アーティスト

2010-12 Graduate School of International & Cultural Studies, Yamaguchi-Prefectural University

***** 山口県立大学大学院国際文化学研究科2年

Student of School of International & Cultural Studies, Yamaguchi-Prefectural University,

の創出を展開することで、地場産業の振興、地球環境への貢献についてフィンランドのデザイナーとのプロジェクトを通して追究したのである。自然の恵み、時の恵みをデザインで表現し、色褪せずに人々を魅了して愛されるための魅力の本質を探り、フィンランドと日本文化の融合や交流を図り、山口から国際的に発信することを狙いプロジェクトを推進した。フィンランドの作家やデザイナーと竹を素材とした多くの作品を制作し、日本やフィンランドで数回の展示会を開催した。地域の団体などの尽力によりプロジェクトは拡大し、2005年にフィンランド・ヘルシンキのデザインフォーラムで開催された展示会へと発展していく。世界的に著名なフィンランドのインテリア企業が竹の家具作品に注目し、オファーを受けたのを契機に、山口県萩市で起業がなされ本格的に事業が開始された。

プロジェクト当初より、地域活性化と環境保全に貢献するには、竹を多く消費できる竹積層合板に注目したデザインの展開を追究した。その中で白樺の積層成形合板による家具で有名なフィンランドのデザイナーが、竹の積層成形合板技術による家具を提案し、企業は生産技術研究を推進、確立し現在に至っている。

筆者のデザイン研究については、当初竹積層合板による家具などの開発を展開してきた。しかしながら平面的な素材では造形に限界があるため、竹積層成形合板によるデザインの追究を進めた。成形を行うのは型が必要であり、型の製作には高額な費用がかかるため、企業の協力により既存の型を流用することでデザインの具現化を図り、シンプルでどのような空間にも調和するデザインの作品を制作してきた。

今回の研究においては、竹積層成形合板のみならず、同じく地域の資源で山口の県木であるアカマツ材、タモ材、柳井市の特産である織物の柳井縞、山口市の特産であるデニムを素材としてデザイン展開や検討を行った。また、表面処理としては、山口市の大内塗の漆、田布施町の櫛蠟（はぜろう）などの研究を進めた。研究成果としては、異なる地域特産素材との融合を狙ったデザインの提案となっている。評価については、素材そのものに様々な物語を有していること、また環境や自然を意識させるデザインに仕上がっているため、使い込むことにより馴染みの意識が芽生え、愛着を持って永く愛用され、そのことで価値が向上するという善循環につながっていくと考えている。そして、地域活性化や環境問題への貢献、新しい文化の創出など、日本の豊かな暮らしの実現に寄与できると信じている。

2. 展示会趣旨（展示会主催者挨拶より）

ここ数年、身の回りの家具、食器他生活雑貨がめまぐるしく変化しております。合理的なデザインの品が割安で何でも手に入ることはありがたいのですが、素材や生産拠点がはっきりせず、無意識に手に入れることに不安が残ります。過去からの生活文化の継承、素材の安全性、環境に対する認識などデザインの中に正しく取り入れられているかが心配ですが、とりあえず値段で決めてしまうことが多いのは仕方ないとも思います。

そのような中で工芸家として日本の素材をじっくりながめ、快適に暮らすための作品を見直し、また日本の未利用の自然材料を出来るだけ活用して、環境にも配慮することに誇りを持ち制作してゆこうと思います。

このたび武蔵野美術大学、共同研究の成果をより多くの人にお伝えたく、こころペイン・ギャラリーにて5人のメンバーが展示致します。研究を始めるにあたり、未利用材料の現状を調査するため昨年春より、大分県、高知県、山口県、鳥取県、秋田県、岩手県へ主に林業関係の組織、団体そして各地の工芸家を訪問しました。半年間集中して森林の調査をしましたが、全般にはほぼ、整備されている印象がありました。ただ西の方で竹林が増えているのが、気になったこと、東では樹齢百年以上の杉の数が減少していることも心配です。すなわち放置されている山林も少なくないという話でした。

このことを受け、短い期間ではありますが何よりも利用されにくくまた諸事情により余った自然材料を使い作ることで、またそれら正面から積極的に取り組んでおられる企業、団体を後押しするつもりで各メンバーが独自の方法で研究をすすめました。

3. 参加アーティスト

【武蔵野美術大学/十時研究室】

十時啓悦：武蔵野美術大学教授
太田邦宏、長津潔、齋藤大路朗

【山口県立大学/井生研究室】

井生文隆：山口県立大学教授
中谷昭子、平川和明、溝内健吾、竹部徳真、北口絢章

【その他】

田中克明：武蔵野美術大学通信教育課程教授

有賀康弘：岩手県工業技術センター上席専門研究員
林宏：漆芸作家／日本文化財漆協会常任理事
白岡崇／株式会社サカモト／富士原文隆／白岡彪／
田村泰之／小坂明／久恒雄一郎

4. 展覧会期間/場所

2012年2月21日（木）オープニング
2月21日（木）-2月26日（日）

ギャラリー ル・ベイン

（東京都港区西麻布3-16-28）

5. 主催/後援

武蔵野美術大学 / 山口県立大学

6. 協力団体

日本文化財漆協会 / 財団法人クラフト・センター・

ジャパン／山口県立大学／TAKE Create Hagi 株式会社／須崎地区森林組合／高知県高岡郡中土佐町役場／久恒森林株式会社／大分県産業科学技術センター／大分県農林水産研究指導センター林業研究部／白岡彪デザイン事務所／株式会社サカモト／安代漆工技術研究センター／二戸郡浄法寺町滴生舎／岩手県工業技術センター／株式会社大館工芸社／財団法人周南地域地域産業振興センター／山口阿東森林組合

7. 謝辞

武蔵野美術大学十時啓悦教授には、井生研究室メンバー共々展示会への参加の招待をいただき、またその他関係する多くの方々には重要な示唆や協力をいただきました。

記して感謝を致します。



igeta-stool / coffee table / jäjiröbee / low stool (左から)

「井桁」という日本古来の形状をモチーフにした座のstuhl：メープル（漆）・竹（オイル仕上げ）／山口県産であるアカマツ材を天板に、竹積層合板を脚に使用したコーヒーテーブル：アカマツ（ハゼ蝋）・竹合板（オイル仕上げ）／山口県の資源であるアカマツ、竹積層合板、ハゼ蝋によるモバイル：アカマツ（ハゼ蝋）・竹合板（オイル仕上げ）／コーヒーテーブルとセットで山口県の資源である柳井縞とデニムを使用したロースツール：アカマツ（ハゼ蝋）・柳井縞・デニム
デザイン：井生文隆 制作：平川和明



Twoside table

補強のために入れたサネと同じ形をした鉄脚がそれぞれのテーブルのアイコンになっている、2wayで使用可能なサイドテーブル。日本の木工文化・伝統技術に異なる素材を組み合わせることによって生まれる新たな魅力を具現化した。
材料：アカマツ（山口県産）、山桜（国産） デザイン・制作：中谷昭子



きのこスツール

家具に使用することが難しい国産材の小径木やクセのある木材を素材としたスツール。

1つ1つの部材が短かく小さいため効率的な材料取り可能。

材料：山桜（オイル仕上げ） デザイン・制作：平川和明



胡座

床に座して使用する小さな卓。お茶とお菓子やお酒とおつまみを前に、床に座ってゆっくりとした時間を楽しんでもらうための、一種の装置。どこへでも気軽にセットできるように、脚部は組み立て式、天板はそのまま盆になる。

材料：杉（山口県徳地産） デザイン・制作：溝内健吾



Lighting series

木目の力強さはもちろん、素材そのものもつテクスチャーを具現化。

あかりをともしたときの、木の表情や肌合いが魅力の照明器具。

材料：アカマツ（山口県産） デザイン・制作：竹部徳真



Lighting series + stool

コンセプトは「無垢」で、木が生きているということを教えてくれるような、美しくはっきりした木目の質感を活かした照明とスツール。また、無機質なアクリルとのハイブリッドな構造により、木の温かい質感だけでなく、どこか生命の緊張感のある作品を具現化。

材料：アカマツ（山口県産） デザイン・制作：北口絢章



DM (デザイン：太田邦宏)



tableware & furniture design
Natural material products
未利用自然素材から生活用品へ

主催 環境型国産自然素材プロダクトデザイン Exhibition
2012.2.21(Tue)~24(Sun) 11:00-19:00 (最終日 ~16:00)
Opening reception 2012.2.21(Tue) 17:00 start
23年度武蔵野美術大学共同研究

PROJECT group
十神 啓俊 / 田中 亮明 / 井上 文雄 / 有賀 謙弘 / 林 宏

member
太田 邦宏 / 島津 淳 / 島崎 直 / 株式会社アカマツ / 平川 和明 / 奥内 朋吉 /
中島 裕子 / 竹原 雅夫 / 北口 誠幸 / 藤原 次雄樹

主催 武蔵野美術大学 協賛 山口県立大学

tableware & furniture design
Natural material products
未利用自然素材から生活用品へ

Sustainability
環境型国産自然素材プロダクトデザイン Exhibition
2012.2.21(Tue)~24(Sun) 11:00-19:00 (最終日 ~16:00)
Opening reception 2012.2.21(Tue) 17:00 start
23年度武蔵野美術大学共同研究



武蔵野美術大学主催
le bain

